

9. 当院で経験した生化学検査の異常事例

-その1，検体に起因する症例-

○清宮正徳 鈴木芳武 吉田俊彦 澤部祐司 野村文夫
(千葉大学病院検査部)

【目的】

当院において経験した，検体に起因する異常事例，およびその解析結果について紹介する．

【症例1】

抗腫瘍薬投与中の患者において，尿酸値が急に低下した（7.0 mg/dl から 0.1mg/dl）．カルテ等の調査により，患者の尿酸値を下げる目的で，尿酸酸化剤のラスリテックが投与されたことが確認された．本剤投与中または投与後の血液においては，採血後も尿酸の分解が進むことから，採血後の室温放置により尿酸の測定値が負誤差を受ける．従って，正確な尿酸濃度測定が必要な場合は，尿酸のみの単独オーダーとし，ヘパリン採血管に採血後，氷冷しながら速やかに検査室に提出するよう診療科に依頼した．

【症例2】

当院ではアンモニア測定用にヘパリン全血を用いており，採血後，氷冷しながら検査室に提出される．ある症例において，採血直後に充分攪拌したにも関わらず，氷水中で凝固した．本症例は，その後の検討により，クリオフィブリノーゲンの存在が確認された．氷冷によりアンモニアの分析が困難になることから，例外的に，採血後，温めながらただちに検査室に提出することを依頼した．本現象は，現疾患の治療と共に起こらなくなった．

【考察】

日常検査において，まれに経験したことの無い異常症例に遭遇する．その際できる限り原因を追究し，対応策を臨床側と協議するなど，きめ細かに対応することは，検査室の信頼性の向上に貢献する．また学会や技師会主催の講演会などで，定期的にこのような異常事例を取り上げることは，各施設における検査の品質向上に極めて有用と考える．

連絡先：043-226-2328

10. 当院で経験した生化学検査の異常事例

-その2，装置に起因する事例-

○清宮正徳 鈴木芳武 吉田俊彦 澤部祐司 野村文夫
(千葉大学病院検査部)

【目的】

当院において経験した，生化学自動分析装置に起因する異常事例，およびその解析結果について紹介する．

【事例1】

ASTまたはALTが異常反応により低値（5 U/L 以下）となり，再検では15 U/L 以上となる事例が，2日に1件程度出現した．反応曲線の調査から，攪拌不足による反応液の揺らぎが疑われた．本現象は攪拌棒の交換によって出現しなくなった．

【事例2】

尿酸値が前回値に比し，異常高値（4が12mg/dL など）となる事例が，1週間に1例程度出現した．反応曲線の調査により，本来終点分析である尿酸の第2試薬添加後の吸光度が，時間経過とともに上昇している現象が観察された．日本電子応用研究グループとの共同調査により，ビリルビン測定試薬とのコンタミネーションの可能性が強く疑われた．試薬プローブおよび攪拌棒の交換を行うと共に，第2試薬添加後の吸光度異常を検出する目的で，尿酸の分析パラメーターの分散値を低く設定した．

【考察】

日常検査において，まれに経験したことの無い異常反応事例に遭遇する．異常事例には必ず原因があり，単なる偶発事故であるとして安易に放置すると，誤った異常値報告につながり，大変危険である．分析装置メーカーのサービス担当者等と普段から綿密に連絡を取るなどして，情報を定期的に取得すると共に，異常反応や原因不明のはずれ値の出現時には，できる限り原因を調査して対応する必要がある．また，同様の装置を使用している施設同士で情報交換できれば大変有用と考える．

連絡先：043-226-2328